

かいがんせん ごがんにしがき
海岸線の護岸石垣

江戸時代の中ごろから幕末にかけてだんだん新田開発が進んで農業も進展しましたが、昭和35年(1960)に出光興産が製油所の建設を始め、妻鹿沖のうめ立て工事が始まりました。今は新田南端の堤防の石垣の一部が昔の面影を残しているだけです。

行った日



きょうねんじ ぶつそくせき
教念寺仏足石

教念寺は天文3年(1534)に道宗により開かれました。亀山本徳寺の系列のお寺です。貞享3年(1686)の梵鐘、「昭和4年」(1929)と彫られた仏足石があります。仏足石は足の長さ65cm、両足に輪相などがある本格的なものです。

行った日



くろだ もとたかこうびょうしょ
黒田職隆公廟所

岩石でできた五輪塔で、天明4年(1874)福岡藩の黒田家によってつくられました。正面に「満誉宗圓大禅定門 天正十三酉八月廿二日」と彫られており、黒田官兵衛の父・職隆のお墓と考えられています。昭和52年(1977)には妻鹿自治会がお墓をおおむ建物を建てかえました。

行った日



こうやまじょうあと
国府山城跡

高さ98mの甲山(荒神山、功山)にあり、またの名前を袴垂城・功山城などといいます。天正8年(1580)羽柴秀吉に、姫路城をわたしたくろだかんべえあしたかあちもとたかあつす黒田官兵衛孝高が父・職隆とともに移り住みました。山のふもとの「妻鹿城址」の碑は昭和45年(1970)に建てられました。

行った日



こねいそう めが
固寧倉(妻鹿)

文化6年(1809)、災害や不作に備えて倉庫をつくり米や麦などをたくわえました。切り妻造りの土蔵で「固寧倉」の額がかけられています。弘化3年(1846)には姫路藩内に288か所の固寧倉がありました。

行った日



調べたこと、
わかったことを
書いてみよう!



めがちく
43 妻鹿地区

国府山城跡
元宮八幡神社
黒田職隆公廟所
固寧倉(妻鹿)
屋台蔵(妻鹿)
役場跡(現自治会館)
妻鹿漁港跡
海岸線の護岸石垣

250
250
山陽電鉄本線
妻鹿小学校

0m 500m 1km

- 遺跡・史跡、歴史上の名所
- 神社・仏閣、歴史的建造物
- 歴史上の人物など
- 祭り
- 美術品
- 伝統芸能など
- 景勝
- 生物・花
- 町並み
- etc その他

大河ドラマの主人公にもなった軍師「黒田官兵衛」ゆかりの地です。あちこちに残る黒田家の面影を探して歩いてみましょう。



こんびら
金比羅

お社はなく、参献灯とある文化6年(1809)の常夜灯をまつり、海の安全を祈りました。妻鹿漁港の「目印」となりました。すぐ左側に薬力稲荷神社があります。

行った日



めがぎょこうあと
妻鹿漁港跡

河川漁港で、村の中に市川から分かれた住吉川、前川、東川が流れ、今の妻鹿東海町が漁港でした。漁港は昭和57年(1982)にうめ立てが終わり、白浜町へ移りましたが、名前は「妻鹿漁港」のままです。

行った日



もとみやはちまんじんじや
元宮八幡神社

妻鹿の守り神で、まつられているのは応神天皇です。宮山の御旅山八幡神社がいつからか山の下に移され、山の上に移るまで御旅山八幡神社の元宮だったそうです。昭和54年(1979)に修復されました。神社の周りの玉垣などに三十八銀行妻鹿支店や力士の名前があります。

行った日



やくばあと げんじちかいかん
役場跡(現自治会館)

明治22年(1889)4月に市制町制が施行され、妻鹿は飾東郡妻鹿村となり、役場がおかれました。昭和2年(1927)には飾磨郡妻鹿町役場になるなど、その後も何度か名前が変わりました。今は妻鹿自治会館として、内部には一部昔の面影が残っています。

行った日



やたいくら めが
屋台蔵(妻鹿)

明治28年(1895)に建てられた屋台蔵を平成23年(2011)に建てかえました。蔵組み造りで屋根の瓦は本葺き、軒は漆喰仕上げです。鬼瓦は建てかえる前の屋台蔵の鬼瓦を模しています。

行った日

